

# 『郷土スライド』解説書

島根県高等学校地理歴史・公民科教育研究会  
石西地区部会編

平成13年2月

## A . 自然環境

### ( 1 ) 益田市の鳥瞰

七尾町の住吉神社より撮影。

( 2003 . 2 写 )

### ( 2 ) 隅村 ( 河岸段丘 )

匹見川流域。南東より撮影。手前の民家はなくなり、現在は空き地になっていた。段丘面に民家がみられる。

( 2002 . 11 写 )

### ( 3 ) 安富 ( 氾濫原 )

高津川右岸の地区である。水田が広がっているが、ビニールハウスでアムスメロンの栽培も行われている。

( 2003 . 2 . 11 写 )

### ( 4 ) 虫追 ( 氾濫原 )

安富からは、高津川を挟んで西 ( 高津川左岸 ) の地区である。ここは砂地のため、多くは畑として利用されている。また安富と同じく、アムスメロン栽培が行われている。

( 2003 . 2 . 11 写 )

### ( 5 ) 久々茂の河岸段丘

上久々茂を東から撮影したものである。護岸工事がなされ、川幅が広がっている。益田川左岸の水田はなくなっていた。

( 2003 . 1 . 25 写 )

### ( 6 ) 飯田の環流部

高津川につながる白上川の環流部である。護岸工事がなされ、堤防がつくられている。

( 2003 . 2 . 11 写 )

### ( 7 ) 古川沼 ( ラグーン )

高津川河口の西側にある。すべてコンクリートで整備された港になっており、このすぐ南は工業団地となっている。

( 2002 . 11 末写 )

### ( 8 ) 高津川河口 ( 導流堤 )

益田港への入り口。大きな変化は見てとれないが、以前の写真では写真右側の海岸線の護岸工事はまだされていなかったようだ。

( 2002 . 11 末写 )

( 9 ) 益田川ダム(「笹倉ダム」) 益田川上流防災ダム  
益田川上流の波田川につくられたダム。

( 2003 . 1 . 5 写 )

( 1 0 ) 益田川の河跡湖

都市化が進み現在河跡湖はほとんど見られなくなった。( 2005撮影 )

( 1 1 ) 益田川河口

上流から運搬されてきた土砂が堆積し、河口は狭くなっている。現在は両岸に護岸工事がされている。

( 2002 . 11末写 )

( 1 2 ) 大塚・中須の河岸砂丘

高津川と益田川によって上流から日本海へと運搬されてきた土砂が、西風に寄せ返されて沿岸州を形成し、その後隆起した結果、大塚・中須の河岸砂丘を形成した。この河岸砂丘上には三列の防風林が並び、その内陸側には集落が立地している。なお、これより南の沖積平野は、河岸砂丘が成立した後に、河川の堆積作用によって形成されたものである。

( 1 3 ) 蟠竜湖(堰止湖)

益田市域の西側に位置する蟠竜湖は、水面の標高約18mで日本海岸の砂質の丘陵上に位置している。海岸沿いの漂砂堆積丘が隆起し、凹部に湧水が堪ってできたのが堰塞(えんそく)堰止湖としての蟠竜湖である。砂地に形成された湖は、地盤のうえで極めて不安定で、地震の際に異変をきたすことが多く、「竜」という字は、それにまつわる地名の名残りだと考えられている。

( 1 4 ) 持石海岸(隆起海岸)

俗に三里ヶ浜海岸とも呼ばれる益田の隆起海岸は、益田市東部の遠田から西部の戸田に至る全長約13kmの弧線を描いている。持石海岸は、この海岸の西部、高津川よりも西部の海岸のことを指す。その景観は、昔も今も大きな違いはない。

( 1 5 ) 鵜の鼻(隆起海食台地)

益田市中央部の砂浜海岸をはさんで、益田市の東西には岩石海岸が広がっている。鵜の鼻は、波の浸食作用により形成された海食台が隆起したもので、海に突き出した鼻にあたる部分は、「鵜の鼻安山岩」と呼ばれ、安山岩岩床が広く露出している。また、その背後の丘には53基が広範囲に分散している「鵜の鼻古墳群」が見られる。

( 1 6 ) 益田市の水道

県立益田高等学校東側の丘陵部に位置している。新しい写真は、別の角度から撮影したものである。

### ( 17 ) 益田川ダム

益田川ダムは、益田市久々茂町に建設されている。

益田川のダム計画は、昭和47年の災害を契機に計画され、その後、昭和58年7月の過去最大の豪雨災害によって計画の見直しが行われ、洪水調節容量の増加が必要となった。

この開発は従来からある支流波田川の益田川ダム（9：別名「笹倉ダム」）の修復と益田川本流の新しい益田川ダムの工事との併設で計画が進められている。

旧来の笹倉ダムに流水の正常な維持の機能を任せ、新しい益田川ダムは治水専用のダムとなり、洪水調節が必要なときのみ貯水すれば良く、平常時は貯水しないダムとなる。

完成すれば、ダムの高さ48m、長さ168m、総貯水容量675万 $\text{m}^3$ の大きなダムができ、58年水害の惨禍は二度と繰り返されないだろう。

## C . 水産業

### ( 1 ) 大浜漁港

整備が進み、全体的にゆったりとした空間が広がっている。

### ( 2 ) 大塚漁港

周辺には廃屋も目立ちはじめ、時の流れを強く感じさせられる。

### ( 3 ) 飯浦漁港

人形峠展望台より撮影。護岸が少し延長されたが、少し寂しさも漂う。

### ( 4 ) 旅順港船着場

護岸工事。港の整備が進んではいるが、周辺とのギャップを感じる。

### ( 5 ) 鮎かけ

真夏の日曜日の昼下がり、向横田大橋の周辺。大いに賑わう。

### ( 6 ) 鮎漁

高津川河口付近。初秋に老夫婦がゆったりとした時間の中で漁を楽しむ。夜の鮎漁（火振り網漁）。

### ( 7 )

### ( 8 ) 養魚場

一部の生け簀を残し、周辺は宅地になり、すっかり様変わりしてしまった。

### ( 9 ) 魚セリ

駅前町から、高津町に移転してきた。早朝から活気に溢れていた。60・70代の人が目立ち、寂しい気もした。

### ( 1 0 ) 鵜飼い

高津川河口付近で、保存会の人たちによる復活した鵜飼い。

D . 商業

( 1 ) 朝市

( 2 ) 益田卸売団地

( 3 ) 益田木工団地

( 4 ) 大型スーパー・マーケット  
キヌヤ。S A T Y (もとマルシン)。

E・F 交通・その他

( 1 )

( 2 )

( 3 ) 益田駅前 ( 再開発 )

2005写。

( 1 ) 市営競馬場跡

写真右上に2002年8月に休止となった益田競馬場跡地。中央は県立公園の蟠竜湖。2005年写。

( 2 ) 益田駅裏 ( 再開発遠景 )

2005年写。

( 3 ) 益田市営競馬場

2002年休止直前の益田競馬場。入場客の減少で廃止になったが、御礼の横断幕とバックの満員の駐車場が象徴的である。ファンが作った横断幕と最後の疾走。

## G . 工業

( 1 )

( 2 ) 益田窯業株式会社

石州瓦は、石見国分寺の建立時に始まり、江戸時代の初期、浜田城の使用瓦として使われたのが基礎となった。以来、石州瓦は独特の赤瓦として注目を浴び、日本三大産地の一つとして西日本を中心に大きく発展してきた。その背景には石州地方に豊富に埋蔵された良質の粘土の存在が挙げられる。昭和40年に神田町に工場が設立されて以来、昭和52年に黒周町に設立された二条工場と共に生産を続け、現在月産45万枚の瓦を出荷する。従業員は34名（平成15年1月現在）である。近年は生産ラインがほぼ自動化され、生産の一層の効率化が図られている。

( 3 )

( 4 )

( 5 ) 中国コンクリート製品工業株式会社

昭和32年8月に創立され、昭和45年に現在地に移された本社工場と、横田にあった第二工場、生コンクリート及びコンクリート積みブロックの製造販売を行い、現在に至る。昭和59年には、美濃郡美都町にコンクリート積みブロック製造の第三工場を新設し、現在は本社工場と第三工場に35名（平成14年6月現在）の従業員が勤めている。第三工場では月産7万から10万個の積みブロックを生産しており、特に最近は、それ以外にも張石ブロック、緑化ブロックなど環境に配慮したブロックの生産も行う。

( 6 ) サン電子工業株式会社益田工場

昭和44年9月、益田小学校跡地に大宮電機株式会社益田工場として誘致されて以来、主にアルミ電解コンデンサの生産を行ってきた。自動機の導入により、電解コンデンサ・チップタイプの生産体制を確立し、昭和63年、社名をサン電子工業株式会社と変更した。平成13年8月、工場を石見臨空ファクトリーパークに新築移転し、現在では従業員約2000名、月産6,500万個のアルミ電解コンデンサを生産する、益田市を代表する工場の一つである。

( 7 )

( 8 ) 中国電力株式会社 豊川発電所

益田地区には水力発電所が4か所あり、豊川発電所は昭和3年に運転が開始された、匹見川最下流にある流れ込み式(ダム式とは異なる)の水力発電所である。発電出力は4,670キロワットであり、上流の匹見、澄川両発電所、高津川の日原発電所と合わせ、23,010キロワットの電力を益田地区に供給している。しかし、益田・浜田地区の最大消費電力は約22万キロワットであり、大幅な不足分は、三隅火力発電所などから補われている。4か所の水力発電所は、現在すべて無人化され、益田制御所において、24時間遠隔監視制御が行われている。

( 9 ) ダイワボウレーヨン株式会社

昭和16年4月、大和紡績株式会社益田工場として誕生して以来、戦時中の停止期間を除き生産を続け、現在日産83トンのレーヨン綿・レーヨントウを製造・販売する日本有数の化繊工場である。昭和57年5月にダイワボウ益田株式会社として分離独立後、昭和63年2月、新たに製販一体のダイワボウレーヨン株式会社が設立され、現在に至っている。敷地面積19万㎡、従業員数約280名で益田市では最も大きな企業の一つである。

( 10 )

( 11 )

( 12 ) 雪舟焼窯元

昭和24年10月、岡山県津山市の「南山焼」から招かれた初代福郷不徹(昭和38年には徹に改名)氏が、雪舟ゆかりの地 医光寺境内に雪舟焼窯場を開き、現在に至る。手作りで雪舟の行雲流水の禅僧生活を色どった雲模様がその特色で、使うほどにうるおいと暖かみが出るのが特徴である。現在は、昭和48年以降先代とともに作陶に携わってきた2代目福郷徹氏が、伝統の技芸を継承し、創作に励んでいる。

( 13 ) 益田大和ゴム株式会社

昭和47年4月の創業以来、ボーリングボール・ゴルフボール・軟式野球ボールなどの製造を行ってきた。近年はそれらのボール製造を他工場へ移管し、昭和58年より製造を開始した競輪用レーシングタイヤの生産に事業を特化している。平成4年に前身の大和ゴム化工が大和紡績に吸収合併されたのを機に、大和紡績の子会社として現在の社名に生まれ変わり、現在に至る。従業員約45名のほとんどが女性で構成されており、全て地元採用である。年間4万本の国内向けタイヤを出荷している。

( 1 4 ) 西日本鋳業株式会社

昭和21年4月に創立以来、益田市馬谷町の城山(標高463m)にてけい石・長石を採掘している。鋳区面積は約9,000aで、ペグマタイト鋳床としては国内最大規模を有し、現在月産1,200トンの採石量を誇る。ここで生産されるけい石・長石は、有田焼や石州瓦の釉薬として、あるいは砥石、焼却炉のろ過用、建築用材として日本各地だけでなく、海外にも出荷されている。また最近では微粉として出荷され、衛生陶器の釉薬としても使用されている。現在従業員23名である。

( 1 5 ) 島根中井工業株式会社

昭和46年9月、中井グループの製造拠点として、中井産業株式会社として設立されて以来、京都西陣織等の金銀糸ならびに装飾材料の製造・加工を行ってきた。昭和63年10月には島根中井工業株式会社として資本金5,000万円で分社化した後、平成13年7月に両社を統合し、現在に至る。現在は、ホットスタンピングホイルや各種包装材料の製造が主体となり、京都中井商事を経て、全国各地のみならず海外にも数多く出荷する。従業員数は約95名である。

( 1 6 )

( 1 7 ) 株式会社みやこ編物

昭和31年1月に設立されたみやこ編物学院をもとに、昭和47年7月、資本金1,000万円をもって現在の場所に設立された。創業者のデザインするニットについて、顧客の細やかな注文に基づいて生産する受注生産を基本とし、全国各地に出荷している。作業は、従業員一人ひとりの手作業で行われ、熟練度に応じてそれぞれが責任を持って一つの製品を仕上げる体制をとっている。現在従業員は約70名であり、大半は女性従業員で占められている。

( 1 8 ) 株式会社ボンニー

昭和35年、大阪で設立され、現在登記上では兵庫県伊丹市に本社を構える。益田市内には、昭和43年に下本郷町に益田工場、昭和63年に神田町に横田工場が設立され、婦人服(主としてスカート)の製造と周辺応用技術製品の企画開発を行ってきた。平成9年には本社機能を横田工場に移し、また平成14年1月に益田工場の生産システムをすべて横田工場に集約している。従業員数は男性23名、女性106名(平成15年1月現在)と女性の割合が多く、主に縫製業務に携わっている。

( 1 9 ) シマネ益田電子株式会社

昭和59年8月、大手半導体メーカーの生産協力工場として設立された。生産ラインの自動化を図りながら売上を伸ばし、当初12名の従業員も現在は約140名と、益田市を代表する工場に成長している。平成13年7月には工場を石見臨空ファクトリーパークに移転し、工場全体を適温適湿に保つ空調設備やエアクリーナーを完備している。平均年齢は32才と、大変若い従業員で構成されている。

#### ( 2 0 ) 有限会社キューサイファーム島根

「青汁」の製造・販売を手がける福岡市のキューサイ株式会社の製造拠点として、平成10年10月に石見臨空ファクトリーパーク内に設立された。平成12年には、原料となるケールの無農薬栽培が開始され、原料の収穫から「青汁」の製造まで一貫して行う生産システムを構築している。従業員数は35名（平成15年1月現在）である。ケールの搾りカスをエサとした、自然卵養鶏事業も合わせて行っている。

#### ( 2 1 ) 株式会社開成島根工場

昭和41年9月に京都で設立されて以来、プラスチック成形・組立と精密金型の製造を行っている。平成3年に島根県の誘致により、島根工場が完成し、社名を開成工業所から株式会社開成と変更した。現在約80名の従業員が働いており、9割以上は地元採用である。近年は特に顧客ニーズの多様化に対応するため、多品種 少ロット生産を行っており、自動化が進んではいるものの、従業員の手作業による工程も多い。

#### ( 2 2 ) 中国電力株式会社 三隅発電所

昭和61年10月から用地の造成を開始し、10年以上の工期を経て、平成10年6月より営業運転を開始した。東京ドームの約15倍の敷地面積があり、発電出力は100万キロワットと、国内で最も大きな発電設備の一つである。ここで生まれた電力は、美都町の変電所を経て、中国地方のみならず関西方面まで供給される。使用燃料の石炭は、オーストラリア、カナダなど海外から直送され、所内の岸壁につけられた石炭船からコンベヤで発電所内に陸揚げされる。また、所内に乗り入れた鉄道を通して、石炭灰が山口県美祢市まで運ばれ、セメント原料として再利用される。最新の環境保全対策を備え、従来設備より約2%の熱効率向上を図った省エネルギー、省資源型発電所である。

#### ( 2 3 ) キーパー株式会社三隅工場

昭和18年に鉄道車両用ダストキーパー製造3社の企業合同により設立され、三隅工場は同社の生産拠点として、昭和45年8月に設立された。以来、自動車、各種産業機械用のオイルシール、O・Dリング、ボルト用シールワッシャー、工業用ゴム製品などを製造し、国内のみならず海外へも多く出荷している。平成元年10月には白砂分室の操業を開始し、より自動化された製造ラインで、高規格製品の製造を行っている。従業員は約250名で、三隅町では最も大きな工場の一つである。

## I . 吉賀地区

### ( 1 ) 深谷大橋

深谷川は山口県との県境に位置する峡谷で、交通上の障害であったが、昭和37年にアーチ型大橋が完成して、六日市町と広島を結ぶ最短経路となった。この大橋の長さは約100 m、谷底からの高さは約80mである。新緑・紅葉の季節には観光客も多い。

### ( 2 )

### ( 3 ) 吉賀川上流の伏流水

吉賀川は六日市町田野原の湧水池に源を発する河川で、この地域最大の河川である高津川の本流にあたる。水源から約2 km下流の蔵木付近では、吉賀川の河川水は伏流して、写真のように水無川となっている。

### ( 4 ) ワサビ栽培

ワサビは清澄な水と冷涼な気候(10~13℃)を好み、直射日光をきらうので、北に面した溪谷または樹陰が適する。島根県では匹見、柿木など石見部の山間部で栽培が盛んである。水害による被害が大きいため、溪谷での栽培は年々減少している。写真は六日市町高尻のハウス栽培のワサビ畑である。

### ( 5 ) 椎茸栽培

柿木村で椎茸栽培が始まったのは明治初期である。現在、県内有数の生産地となっているが、近年は菌床栽培の椎茸が中心で、主に徳山方面に出荷している。写真は柿木村柿木にある生しいたけ集出荷センターと、機械による出荷作業の様子である。

### ( 6 )

### ( 7 )

### ( 8 ) 高冷地リンゴ栽培

六日市田野原では冷涼な気候を生かして、昭和25年からリンゴ栽培が始められた。現在の詳しい状況は不明であるが、昭和40年代に比べ、栽培農家数・耕地面積・生産量ともに減少している。

### ( 9 )

### ( 10 ) シャクナゲ栽培

石楠花(シャクナゲ)は六日市町の町花である。ツツジ科に属するこの花は、4月中旬から5月上旬に淡紅色の豪華な花をつける。町内では河津と蓼野に石楠花園が見られるが、写真は蓼野のものである。なお、六日市町樋口にはカタクリの群生地があり、3月下旬から4月上旬に可憐な花を咲かせている。

( 1 1 ) コウヤマキ

高野槇は六日市町の町木である。スギ科に属するこの木は、別名を高野杉ともいい、建築材や高級風呂材に利用される。町内では有飯から九郎原にかけて、自生林が見られる。写真は町役場前庭に植えられている「コウヤマキ」と、町が設立した「コウヤマキギャラリー」である。

( 1 2 ) 誘致企業 ヨシワ工業株式会社

この会社の工場は、六日市町七日市と初見にある。七日市に誘致された六日市工場は昭和48年に創立された。従業員のほとんどは地元採用である。主に自動車部品を生産しており、製品の多くはマツダ(旧東洋工業)に納入されている。

( 1 3 )

( 1 4 ) 大井谷の棚田

柿木村大井谷には「日本の棚田百選」に認定された美しい棚田が、600枚以上も分布している。現在、この地区は戸数21戸、人口80人弱で、農家はすべて兼業農家である。保全に向けてトラスト制度やオーナー制度などの取り組みを、村が中心になって実施している。

( 1 5 )

( 1 6 )

( 1 7 ) 高尻ダム

このダムは、昭和49年に着工され、53年に竣工した砂防堰堤である。ダムから上流の流域面積は6.7km<sup>2</sup>、ダムの高さは18m、長さは87mである。ダムの下流には平成8年にオープンした「ゴギの郷」があり、公園として整備されている。

( 1 8 ) 岩日線六日市駅 予定地

岩国市と日原町を結ぶ予定地であった岩日線は、途中で建設中止となり、六日市駅予定地も盛土した状態で工事中止となった。この敷地は町が買い取り、現在、東京芸術大学学長で六日市町出身の澄川喜一氏のモニュメントや温泉施設などがある。

( 1 9 ) 中国道六日市インターチェンジ

昭和58年に全線開通した中国自動車道は、大阪府吹田市と山口県下関市を結ぶ全長543kmの高速自動車道である。この自動車道で、島根県唯一のインターチェンジが六日市インターチェンジである。国道187号線に直結しており、広島・九州方面への時間距離が大幅に短縮された。

#### ( 2 0 ) 六日市・七日市の市街地

六日市町は島根県の南西部に位置し、鹿足郡の柿木村・日原町や美濃郡匹見町、山口県の錦町・鹿野町に接した県境の町であり、経済的・社会的交流は山陽が中心となっている。写真は町役場前の六日市市街地と、吉賀高校付近の七日市市街地の様子である。

#### ( 2 1 ) 深田（ふけだ）

通称「八町八反の深田」と呼ばれる湿田は、高津川源流付近にある。河川争奪により上流をもぎ取られた吉賀川は旧河道の一部が堰き止められて、付近一帯の黒ボコ土壌を泥土化し、このような湿田ができたものと言われている。乾田化事業により、現在は立派な水田となっている。

#### ( 2 2 )

#### ( 2 3 ) 弥生土器出土地

六日市町田野原星坂で、昭和29年に遺跡が発見された。星坂弥生遺跡といわれるこの遺跡からは、縄文時代から古墳時代までの土器や石器がたくさん出土したが、多くは石鏃・石包丁・石錘・弥生土器など、弥生時代中期のものであった。

#### ( 2 4 ) 高津川源流

この地域最大の河川である高津川（吉賀川）の水源は、通称「一本杉」と呼ばれる木が位置する湧水池である。水源会館の設置など、現在、この一帯は水源公園として整備されており、夏には水源まつりが開催されている。

#### ( 2 5 ) 藩境石

この境石は周防国（萩藩）と石見国（津和野藩）、今の六日市町星坂と錦町宇佐郷との境に建ててあったもので、現在は水源公園内に移されている。この道は津和野藩主の参勤交代の順路にあたり、ここから津和野の城下町までの距離は約55kmであった。

#### ( 2 6 )

#### ( 2 7 )

#### ( 2 8 ) 安蔵寺山登山口

西中国山地国定公園の中にある標高1263mの山で、県内最高峰である。山の名称は、14世紀に津和野藩主の命によって山中に寺が建立され、阿弥陀仏を安置して、その寺を安蔵寺と名づけたことに由来する。なお安蔵寺はその後焼失した。

#### ( 2 9 ) 旧道面家住宅

この家は六日市町注連川の堂免にある。江戸時代後期の一般庶民の生活状況を知る上で、きわめて貴重な住宅であり、重要文化財に指定されている。破損が激しくなったため、昭和50年から解体・復元工事が実施されて、現在に至っている。

( 3 0 )

( 3 1 ) 大野原運動交流広場

柿木村大野原にあるこの広場は、かつて日原営林署の育苗圃場があったところを村が大野原森林公園として整備した。園内にはサッカー場、テニスコート、ゴルフ場、遊歩道などがあり、現在も整備事業が実施されている。

( 3 2 ) 吉賀川氾濫原とバイパス

この写真は七日市の下流約 2 km に位置する七村地区の氾濫原で、長さ 2 km ・幅約 500 m の規模で、吉賀川流域では最大級である。下方に見えるのは昭和 49 年に完成した国道 187 号線のバイパス、上方に見えるのは盛太ヶ岳である。

( 3 3 )

( 3 4 )

( 3 5 ) 六日市学園

この学校の正式名称は「六日市医療技術専門学校」という。急速な高齢社会に対処するため、平成 5 年にまず介護福祉専門学校として六日市町真田に開校され、平成 9 年には看護科を開設して、現校名に改称した。現在の募集定員は 2 学科で 110 名である。

( 3 6 ) 六日市病院

六日市学園の実習施設の一つが、昭和 56 年に六日市町六日市に開設されたこの病院であり、平成 13 年に「医療法人 石州会」に改組された。現在の病床数は 529 床、診療科数は 10 科の総合病院であり、地域医療の中心となっている。

( 3 5 ) カントリーエレベーター

この施設は、七日市の穀倉地帯である六日市町真田に、平成 7 年に完成した。JA 美鹿（現 JA 西いわみ）が農産物の販売力強化と、米作農家の低コスト化・省力化を図るために設置した地域施設で、正式には「地域連携型大規模乾燥調製施設」という。

( 3 6 ) むいかいち温泉 ゆ・ら・ら

平成 12 年、六日市町有飯にオープンしたこの温泉は、総工費約 16 ～ 17 億円を投じて完成し、第 3 セクター方式で経営されている。「ゆ・ら・ら」の名称は、全国から寄せられた 6000 通のはがきの中から選定された。ロビーの壁面には六日市町出身の森英恵さんデザインの巨大なタペストリーが飾られている。

### ( 3 7 ) 李郎子の墓

秀吉の朝鮮侵略（慶長の役）の時、津和野城主の吉見氏に従軍して朝鮮に渡った柿木村福川の三之瀬城主の斎藤氏が、蔚山の戦い後、捕虜として日本に連行した陶工が李郎子である。斎藤氏は彼を福川奥地の杉ヶ峠に住まわせ、唐人窯や家庭を持たせて、主に日用的な陶器を焼かせた。

### ( 3 8 ) 唐人焼窯跡

李郎子の墓から約300m上がると、島根県で一番古いといわれるこの窯跡に至る。

約30°という急勾配に築かれた窯の形式は5段連房式の登窯であり、およそ全長15m・幅3m・奥行0.5mの小規模なものであったと推測されている。近くの唐人屋トンネルは津和野町と柿木村の境界となっている。

### ( 3 9 ) 道の駅かきのきむら

国道187号線に面するこの道の駅は、平成9年、柿木村柿木にオープンした。休憩棟のほか、特産品販売所・レストランなども併設している。隣接して、村役場やふれあいホールもあり、柿木村の中心地区を形成している。

### ( 4 0 ) 木部谷温泉・間歇泉

柿木村木部谷にある木部谷温泉の特色は間歇泉で、炭酸ガスの圧力で15分ごとに、地上2.5mまで噴き上げる全国でも珍しいものである。泉質は炭酸水で、ラドンを豊富に含んでおり、神経痛、リウマチ、筋肉痛などに効き目がある。

## J . 匹見地区

( 1 )

( 2 )

( 3 )

( 4 )

( 5 ) 日の里集落

( 6 ) 小中合同寄宿舍

( 7 ) 三葛

三葛全景。旧三葛小学校。明治 8 年 ( 1875 年 ) 西村小学校三葛分教場として創設。平成 11 年 3 月、124 年の歴史を閉じた。現在宿泊施設として利用。

( 8 ) 匹見峡

裏匹見峡の匹見峡レストパーク。キャンプ場 , コテージの施設がある。キャンプ場内の裏匹見峡の清流。

( 9 ) 氾濫原

休耕田が目立つ。

( 1 0 ) 河岸段丘

休耕田が増えている。段丘最上面にナイター施設のある運動公園がある。

( 1 1 ) 棚田

ここでも休耕田が増えている。

( 1 2 ) 和田古墳

( 1 3 ) 美濃地家

( 1 4 )

( 1 5 )

( 1 6 )

( 1 7 ) 匹見発電所

( 1 8 ) 匹見町商店街

( 1 9 ) 臼木谷 1 9 1 号線

( 2 0 ) タウンホール

( 2 1 ) 巨大迷路

昭和61(1986)年5月ニュージーランド, ワナカ町から導入された木造の迷路。地元の間伐材を使った日本初の巨大迷路の一つ。

( 2 2 ) 匹見ウッドパーク

平成2(1990)年、益田農林高校匹見分校の跡地を利用。世界のパズルやかつての匹見索道の模型を展示。

( 2 1 ) 匹見峡温泉 やすらぎの湯

平成7(1995)年、オープン。

K . 津和野地区

( 1 ) 津和野

( 2 )

( 3 ) 門林扇状地

( 4 ) 稻荷神社

( 5 ) 郡役所 ( 現津和野町役場 )

( 6 )

( 7 ) 津和野城跡

( 8 ) 鷲原八幡宮流鏝馬馬場

( 9 ) 多胡家門

( 1 0 ) 森鷗外旧居

( 1 1 )

( 1 2 ) 津和野カトリック教会

( 1 3 )

( 1 4 )

( 1 5 )

( 1 6 )

( 1 7 ) 津和野機関区

( 1 8 )

( 1 9 )

( 2 0 ) 津和野観光リフト

( 2 1 ) 津和野和紙

L . 孤島(高島)

( 1 ) 高島全景

( 2 )

( 3 )

( 4 )

( 5 )

( 6 )

( 7 )

( 8 )

( 9 )

( 1 0 )

平成13(2003)年2月島根県高等学校地理歴史・公民科教育研究会  
石西地区部会により作成・編集されたスライド教材『郷土スライド』  
の解説文です。

( )の番号は昭和51年の『郷土スライド』と同じです。そのうち、  
タイトルまたは文のないものは、H13年現在、なくなったものや、そ  
の場所が特定できなかったもの、諸事情により撮影できなかったもの  
などです。

昭和のスライド写真・解説文と併せてご覧下さい。